



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



折言羽扇 (ちぐい せご うちあし)

竹塚東子作 柳川重信画

西興板

13
2378
341



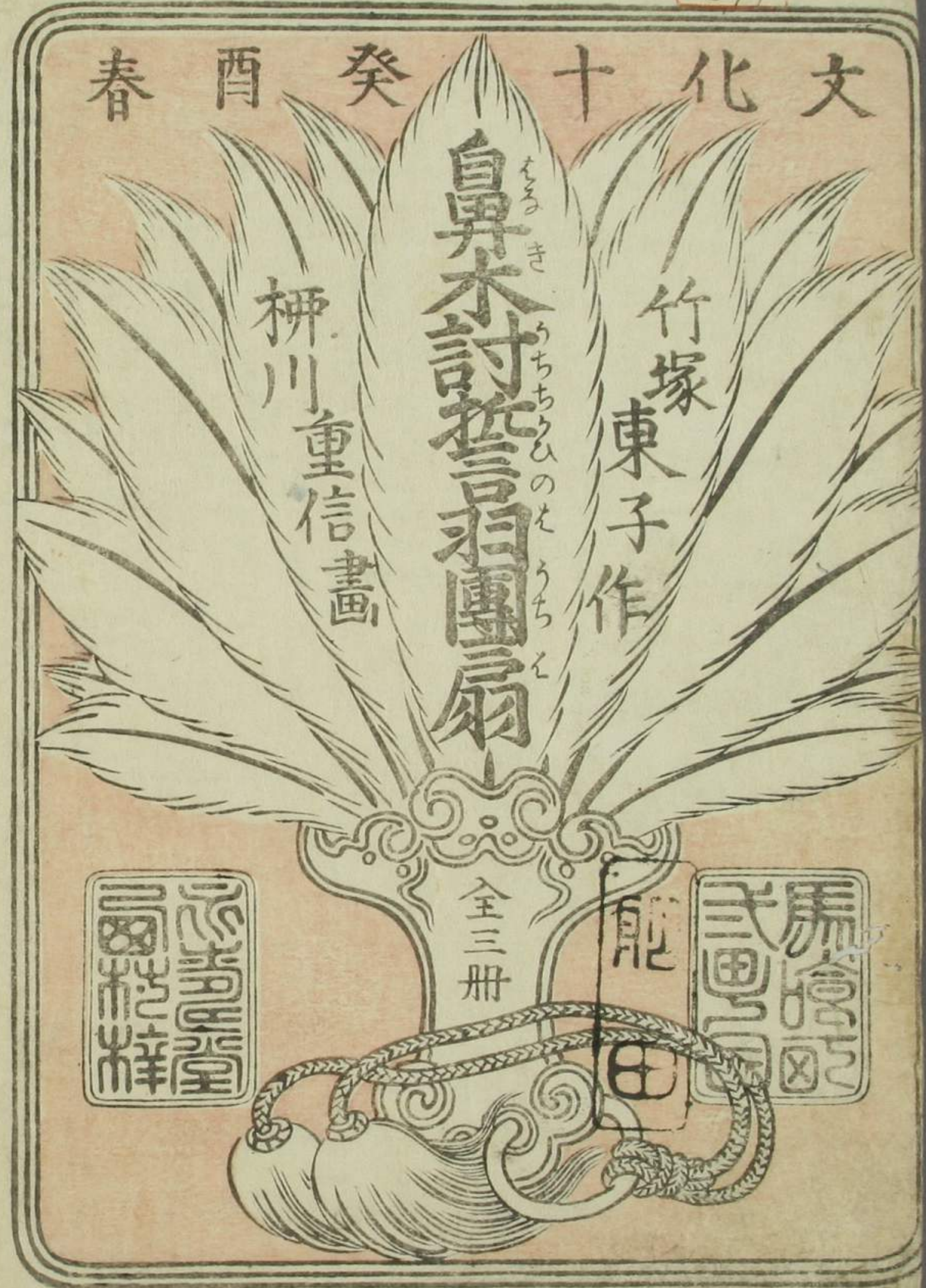
遠 18 特
2378
341

文 化 十 癸 酉 春

鼻木討誓羽團扇

竹塚 東子作

柳川 重信 畫



全三冊

馬場 氏國 印

熊 田 氏國 印

卷之上

夫天物とく者いづく誰が子孫ありと云はるるを知ぞ。
 聖賢の説あり有るべし。釋者七子餘卷中あり。えんぞ。
 時論が本草曰。毛物といふ者。あはれと云ふ。云天物と
 中。推といふ。獸。又韓退之。竹州。乱の詩。天狗
 階地。聲如雷。と云ふ。註。曰。天狗。形如犬
 山海經。曰。天門。山。小赤。犬。あり。天狗。と号。其光
 天。正。和。流。一。を。星。と。成。と。長。サ。教。丈。其。声。如。雷。
 足。天。官。書。天。文。志。二。戈。圖。會。總。旨。規。揖。要。等。に。所。謂
 天。物。星。の。ゆ。かり。と。干。寶。搜。神。記。曰。南。方。越。之。國。鳥。あり。陰。山。と。海。と
 樹。を。穿。て。巢。を。作。口。の。度。さ。數。寸。過。り。て。星。を。犯。す。り。の。家。を。燒。く。形
 鳥。の。こ。し。其。名。天。狗。治。鳥。といふ。是。日。本。の。天。狗。也。似。て。は。り。の。こ。其。外。に
 える。研。は。し。と。ある。識。者。の。ま。う。き。後。に。い。く。中。に。重。か。け。る。異。形。の。者。の
 の。終。へ。き。さ。も。あ。ら。え。ま。ま。と。無。と。母。ま。り。め。が。し。今。世。天。狗。陰。山。に。住。む。
 敵。を。死。す。の。市。中。に。湊。く。あ。ら。く。大。言。を。吐。き。已。は。高。ぶ。り。恒。小。熱。鐵。な。り。ね
 劍。差。老。松。を。く。ひ。か。ら。せ。の。八。百。懸。八。百。メ。ク。貫。六。百。文。育。不。文。と。人。を
 見。え。と。は。れ。と。此。天。物。と。も。鼻。陰。也。と。面。は。陽。也。と。雖。も。高。た。り



定

大津湯殿も林と人使へ。其帝声も唐人多しく俗も通せどたぬく
 博識のあつたの鼻を三尺の中埋りて漢とも語らぬと云ふことあり
 大急坊後ふ山伏の姿となりて人をもまらんと依りて是れ熱ひもひ。大津の
 まつたことたつたあひもど。今将三冊の双糸に懸して是れを志ありき。これや
 人の親の兒をうつつておつてあよるおよとあねの鼻をわくと大切なることありき。これ
 ナイト子共荒がえんくと竹の塚まふ代をうたれ。羽鼻を抜く。甫云

文化九年申の若菜の以稿成
 日 十癸酉のち月を休冊弘

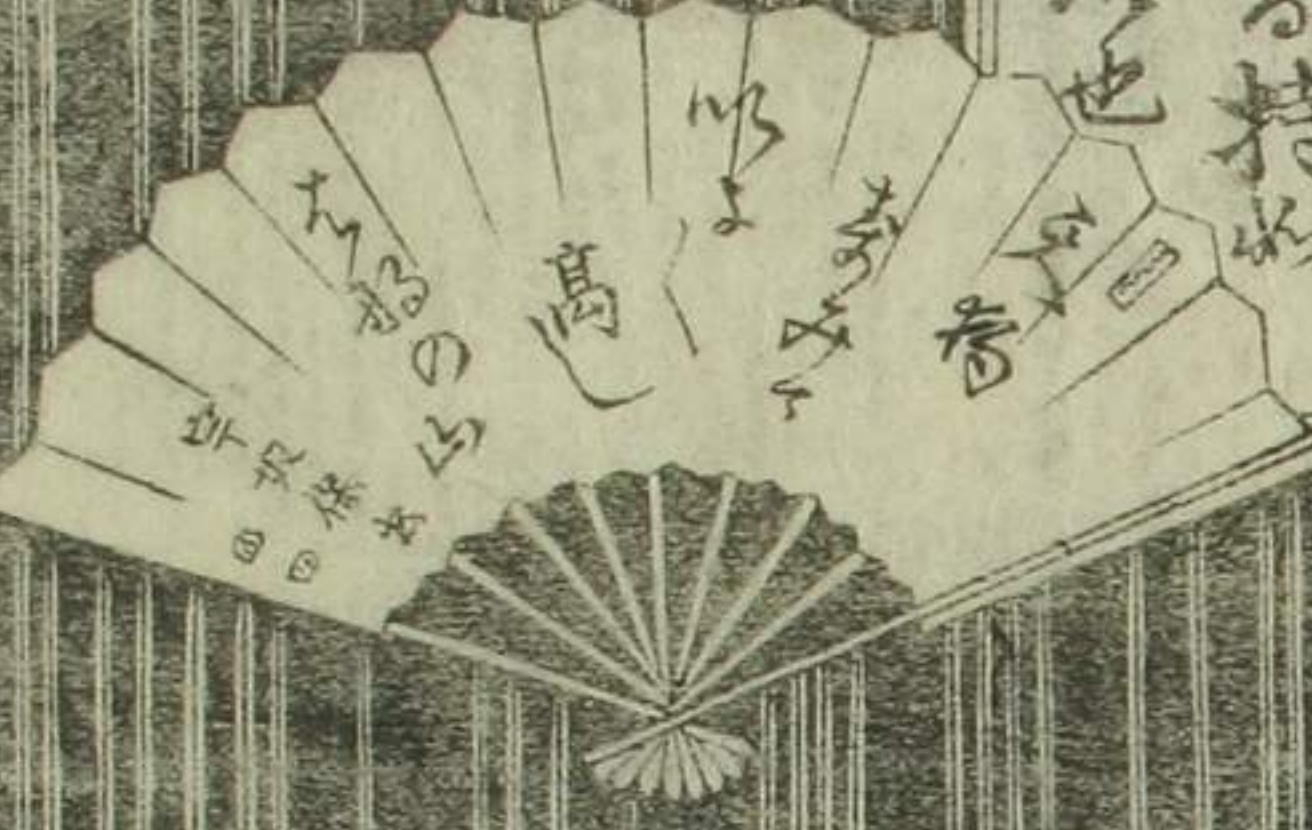


浪人
已保慢九郎

東 園



已惚
 多持
 羽扇而
 皆持ぬ
 此也



内場礼之進
於負

月...の...

土のこの世の世に
 木のこの世の世に
 ... (vertical text continues) ...



けしき
 ... (horizontal text below the illustration) ...



... (horizontal text below the illustration) ...

ちのうき「かきとあしれ
 らせかれがいのまきりて
 せんせいのたまつていれ
 うこそこのきりあるまじ
 地ちうせまきゆのけり
 どのまうらうとあつた
 まんからたまあまの
 まうけのひまへしと
 れら進ぐていし
 門人のまきりまひり
 ちのうき「かきとあしれ
 らせかれがいのまきりて
 せんせいのたまつていれ
 うこそこのきりあるまじ
 地ちうせまきゆのけり
 どのまうらうとあつた
 まんからたまあまの
 まうけのひまへしと
 れら進ぐていし
 門人のまきりまひり
 ちのうき「かきとあしれ
 らせかれがいのまきりて
 せんせいのたまつていれ
 うこそこのきりあるまじ
 地ちうせまきゆのけり
 どのまうらうとあつた
 まんからたまあまの
 まうけのひまへしと
 れら進ぐていし
 門人のまきりまひり



ちのうき「かきとあしれ
 らせかれがいのまきりて
 せんせいのたまつていれ
 うこそこのきりあるまじ
 地ちうせまきゆのけり
 どのまうらうとあつた
 まんからたまあまの
 まうけのひまへしと
 れら進ぐていし
 門人のまきりまひり

ちのうき「かきとあしれ
 らせかれがいのまきりて
 せんせいのたまつていれ
 うこそこのきりあるまじ
 地ちうせまきゆのけり
 どのまうらうとあつた
 まんからたまあまの
 まうけのひまへしと
 れら進ぐていし
 門人のまきりまひり



ちのうき「かきとあしれ
 らせかれがいのまきりて
 せんせいのたまつていれ
 うこそこのきりあるまじ
 地ちうせまきゆのけり
 どのまうらうとあつた
 まんからたまあまの
 まうけのひまへしと
 れら進ぐていし
 門人のまきりまひり



茶の湯
お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯

お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯

お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯

お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯

お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯

お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯



お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯

お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯
お茶の湯



此の世に...
 仁義の...
 此の世に...
 仁義の...

此の世に...
 仁義の...
 此の世に...
 仁義の...



此の世に...
 仁義の...
 此の世に...
 仁義の...

此の世に...
 仁義の...
 此の世に...
 仁義の...

さておれをふりかへて
 めんどのあつちをきき
 まあしそんがころの
 かんたんなあつちを
 けんたんなあつちを
 せんたんなあつちを
 せんたんなあつちを
 せんたんなあつちを

竹塚東子作
 筆耕
 石原駒知道



柳川重信画



願主 内場礼之進

イヤモウ
 かんまき
 ああ
 あらあ
 あらあ
 あらあ

山東庵京傳隨筆
 雑劇考古録

一名 一目千古集
 前編大本五冊

秋式 櫻苞の諫言
 奥州時鳥の血文

讀書丸

一色
 まゝあす

五絃集 半面養人
 全部 九冊

山東京傳作
 歌川豊國画
 近刻
 永壽堂

○此一巻一巻とて、此も世にけしを骨のこゝろを、とてまゝあす、
 老も若も、さうあつちを、さうあつちを、さうあつちを、さうあつちを、
 のの、さうあつちを、さうあつちを、さうあつちを、さうあつちを、
 のの、さうあつちを、さうあつちを、さうあつちを、さうあつちを、

十三味茶 水晶粉

新織和笑府
 山月菴古折輯 全一冊
 歌川國直画
 尚四郎作
 自作のてあつちを、さうあつちを、さうあつちを、さうあつちを、

